

第 63 年度（平成 28 年度）事業計画書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

大阪府中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号

公益財団法人 篷 庵 社

平成 28 年度事業計画

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

I. 事業の概要

本財団は、薬学等の進歩発展に資するため必要な研究を行うものに対し、下記に該当する研究者を対象に研究の助成並びに研究費の援助を行い、もって薬学の発展に寄与することを目的として、主要事業およびこれに付帯する事業として以下の活動を実施する。

- (1) 優秀な素質を有するが、財源不足等のために研究の継続が困難である研究者
- (2) 他からの助成を受けにくい薬学的な基礎研究を行なっている研究者
- (3) 特に若手の独立前後で将来有望な研究者

1. 研究助成金の交付

◇ 「研究助成」

平成 26 年 10 月に実施された内閣府立入検査において改善指示のあった「研究助成」の推薦および選考方法の改定案を以下の通りとし、平成 29 年度の研究助成受領者より適用する。なお、この改定案については内閣府の承認済である。

- (1) 外部理事、評議員の互選により決定していた「推薦委員」を「選出委員」という。また選出委員による、被助成候補者（以下、「候補者」とする。）の「推薦」を「選出」という。
- (2) 選出委員は 1 名以上 2 名以内の候補者を選出する。これにより 5 名の選出委員から、5 名以上 10 名以内の候補者を選出される。これらの候補者は、選考委員による第一次審査（書面）において審査される。
- (3) これまで第一次審査（書面）において「諾否」での評価であった審査方法を、A,B,C,D の四段階評価とし、評価内容がよりわかりやすい審査方法へ変更する。
- (4) 第一次審査の結果は、選考委員会（最終審査）にて審査され、最終的に 5 名の候補者を決定する。なお、第一次審査の結果によるふるい落としは行わない。
- (5) 選考委員会で決定した 5 名の候補者は理事会にて審議され、承認を以て助成金受領の最終決定となる。

◇ 「特別研究助成」

大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県下を対象に公募する。応募者は選考委員会にて候補者を選考し、理事会で正式な助成決定をする。応募者との直接の利害関係者は選考に加わらないよう選考内規に定めている。

2. 研究成果報告

- ・塩野義製薬株式会社 医薬研究センターにて、「第 35 回公益財団法人篷庵社研究助成発表会」を開催する。また、成果報告書（論文等）の提出を義務付けている。

3. 助成の募集

- ・平成 28 年度「特別研究助成」の公募を行う。

II. 事業の内容

1. 研究助成金の交付

1) 研究助成（50 万円/件・年）：

4 年目：5 件、 3 年目：5 件、 2 年目：5 件、 新規：5 件

計 20 件 計 1,000 万円

2) 特別研究助成

（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県対象，250 万円/件・年）：

2 年目：1 件、 新規：1～2 件

計 2～3 件 計 500 万～750 万円

総計 22～23 件 計 1,500 万～1,750 万円を交付予定

各助成金の交付先は【別紙 1】の通り。

2. 第 35 回研究助成発表会の開催

平成 28 年 7 月 29 日（金）午後 1 時から

於 塩野義製薬株式会社 医薬研究センター オーディトリウム
（大阪府豊中市二葉町 3-1-1）

プログラムは【別紙 2】の通り。

助成期間が終了した、平成 24 年度新規「研究助成」交付者および平成 26 年度新規「特別研究助成」交付者による研究成果の報告会を行う。

開催費：230 万円

3. 助成の募集他

平成 28 年度「特別研究助成」の募集テーマを決定し、公募する。

また、選考委員会を開催し、審議する。採択数は 1～2 件程度の予定。

これら公益目的事業推進費：405 万円

事業費総計：2,385 万円

以上

平成28年度研究助成金交付先一覧表

◆ (1件50万円×20件=計1,000万円)

助成	所属(申請時)	研究者	研究テーマ
4年目	熊本大学大学院生命科学研究部 薬物活性学分野	香月 博志	加齢・生活習慣要因による視床下部機能の変調に関わる分子機序の解明
4年目	東京大学 工学系研究科	柴山 創太郎	「大学の企業化」による医薬品研究開発に対する影響の分析
4年目	昭和薬科大学	岡本 巖	動的活性制御を指向した環境応答型新規 <i>N</i> -アルキル芳香族アミドの創製
4年目	名古屋工業大学大学院 工学研究科	柴田 哲男	不活性結合活性化を伴うトリフルオロメチル化反応の開発
4年目	北海道大学大学院 先端生命科学研究院	比能 洋	筋ジストロフィー、多発性硬化症などの神経疾患に関与する <i>O</i> -マンノース型糖鎖修飾の合成化学的機能解明
3年目	京都大学大学院薬学研究科	竹本 佳司	抗多剤耐性結核菌活性を有する caprazamycin 類の合成研究
3年目	山形大学地域教育文化学部 食環境デザインコース	鈴木 拓史	希少糖(レアシュガー)の消化管吸収機構と小腸機能回復に与える影響
3年目	金沢大学医薬保健研究域 (薬学系)	加藤 将夫	有機カオチン膜輸送体の臓器疾患と薬物治療に及ぼす役割
3年目	東京大学大学院医学系研究科	浦野 泰照	蛍光プローブの論理的精密設計に基づく、細胞生命現象・in vivo 微小がんイメージングの実現
3年目	鳥取大学医学部 分子薬理学分野	富田 修平	肺高血圧症に伴う血管リモデリングに寄与する低酸素応答性エフェクター分子の解析
2年目	富山大学大学院医学薬学研究部 (薬学)	矢倉 隆之	グリーンケミストリーを指向した新規触媒の開発と応用
2年目	京都薬科大学 生薬学分野	中村 誠宏	メディシナルフラワーを素材とした生体機能性成分の探索
2年目	東京薬科大学 薬学部	矢内 光	強酸性炭素酸とその共役塩基に着目した新触媒の開発
2年目	首都大学東京 都市教養学部 理工学系生命科学コース	安藤 香奈絵	神経細胞内ミトコンドリアの局在制御とその破綻による神経変性のメカニズム
2年目	滋賀医科大学 薬理学	今村 武史	糖尿病病態因子による幹細胞障害の同定と治療法の試み
新規	金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室	金田 勝幸	ストレスによる薬物依存症再燃メカニズムの解明
新規	慶應義塾大学薬学部	大江 知之	肝障害を有する医薬品の代謝活性化機構の解明とそれを基盤にした低毒性医薬品の創製
新規	静岡県立大学食品栄養科学部	増田 修一	ブドウ球菌毒素が誘導するスーパー抗原活性に対する植物由来成分および生薬による制御機構の網羅的解析
新規	香川大学医学部薬理学	西山 成	生活習慣病に対する新しい診断治療法の開発
新規	埼玉大学大学院理工学研究科	松岡 浩司	超高感度蛍光共鳴エネルギー移動による定量的バイオセンシングを可能とする新しい糖鎖高分子の創出

◆ 特別研究助成 (1件250万円×2件=計500万円)

助成	所属(申請時)	研究者名	研究テーマ
2年目	独立行政法人医薬基盤研究所 バイオ創薬プロジェクト	角田 慎一	蛋白質工学的手法によるサイトカイン-レセプター相互作用の複雑性の理解とその制御による革新的創薬
新規 第1位	京都大学大学院医学研究科 循環器内科学	牧山 武	ラミンA/C遺伝子関連心筋症におけるヒトiPS細胞・ラットモデルを用いた病態解明・治療法開発
新規 第2位	神戸大学大学院医学研究科 内科系講座小児科学分野 こども急性疾患学部門	池田 真理子	福山型先天性筋ジストロフィーの中枢神経症状に対する細胞移植治療法の開発

以上

第 35 回公益財団法人篷庵社研究助成発表会

日 時：平成 28 年 7 月 29 日(金)13 時 00 分から 17 時 20 分

場 所：塩野義製薬株式会社 医薬研究センター オーディトリウム
(大阪府豊中市二葉町 3 丁目 1 番 1 号)

TEL : 06-6331-5105【事務局直通】, 06-6331-8081【代表】

13:00-13:05 ご挨拶 公益財団法人篷庵社 理事長 武田 禮二

演 題 (講演 25 分、討論 15 分)

座 長

- 13:05-13:45 1. 立体化学的に不安定なキラルカルバニオンの合成化学への展開
佐々木 道子 先生
(広島大学大学院医歯薬保健学研究院 基礎生命科学部門薬学分野) 大和田 智彦 先生
- 13:45-14:25 2. 光制御可能な NO・活性酸素ドナー化合物の開発
中川 秀彦 先生
(名古屋市立大学大学院薬学研究科 薬化学分野) 廣部 雅昭 先生
- 14:25-15:05 3. 糖尿病性神経障害の治癒をめざす TNF- α の分子標的療法
小島 秀人 先生
(滋賀医科大学 生化学・分子生物学講座) 岩尾 洋 先生
- 15:05-15:20 休 憩
- 15:20-16:00 4. 酸化コレステロール secosterol の生物活性機構解析
三好 規之 先生
(静岡県立大学 食品栄養科学部) 伊勢村 護 先生
- 16:00-16:40 5. 新たな薬効評価系の確立
泉 康雄 先生
(大阪市立大学大学院医学研究科 分子病態薬理学) 宮崎 瑞夫 先生
- 16:40-17:20 6. 《特別研究助成》
メチル化 DNA 可視化マウスを用いた病態評価法の確立
山縣 一夫 先生
(近畿大学生物理工学部 遺伝子工学科) 塩野義製薬(株) 研究員

以上